2026.8

フレッシュキーパー®
FRESH KEEPER

フレッシュキーパー
作業マニュアル

⚠ 脚立使用時の注意事項

フレッシュキーパー	P1～P20
オプション 鉄粉取り	P21
撥水効果についての基礎知識	P22

KeePer技研株式会社

⚠ 脚立使用時の注意事項



脚立は安全のため
以下の項目に注意して使用する。

※脚立は、取扱説明書に従って正しく使用する。

●使用時は安全のためにヘルメットを
着用する。



●脚立の滑り止めが
剥がれている
脚立は使用しない。



●脚が 4 点とも接地し、
ぐらつかず自立した状態で使用する。



●使用時に転びそうになった場合は、
持っている道具を放し、両手で身を守る。

フレッシュキーパーで使用するツール

STEP.2 脱脂工程で使用

●爆ツヤ または 爆白ONE
●爆ツヤ専用小分けボトル
　または 爆白ONE専用小分けボトル
●スポンジ 青
●ラ・モップⅡ



STEP.3 ガラスコーティングで使用

●ダイヤモンドキーパーケミカル
●スポンジ 黄
●ダイヤクロス
●蓄圧式水スプレー



STEP.4 レジンコーティングで使用

●FRESHレジン
●レジン用スポンジB
●レジンクロス



●キーパークロス



●KeePerチェックライト



●快洗Taoる



●チェックボード



便利品

⚠ 注意:●脚立使用時は安全のためにヘルメットを着用する。

●ブレーキダストクリーナー(B.D.C)



●B.D.C用スプレー容器



●脚立・ヘルメット



●ホイール用スポンジ



●タイヤキーパースタンダード・
　またはタイヤキーパー



●柄付 タイヤスポンジ



フレッシュキーパー 作業の流れ

STEP.1	洗車	P3
▶	オプション **鉄粉取り**（鉄粉が付着している場合）	P21
STEP.2	汚れ落とし（コーティング前処理）	P4～P6
STEP.3	ガラスコーティング	P7～P12
STEP.4	レジンコーティング / 仕上げ	P13～P20
▶	**夏2時間～冬5時間の自然硬化またはコーティングホールド**	

⚠ 注意：アドバンストドライブのLiDAR表面にはボディーコートを施工しないでください。

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサーが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。（レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等）



（写真）フロントナンバー下のLiDAR

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



参考
- 経年車の場合、汚れに応じて
  下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくと
  その後の前処理の作業効率がよくなります。

「虫」汚れには

インセクトリムーバー

使用するツール

インセクトリムーバー
（ボディ・ガラス面の強力虫取り剤）





虫が付いている箇所に水をかけ
インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

タールリムーバー

使用するツール

タールリムーバー
（ピッチ・タールクリーナー）





ピッチが付いている箇所に水をかけ、
タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

ブレーキダストクリーナーB.D.C

使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC
（自動車用ホイール洗浄剤）





B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、
汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

※ホイールコーティングを
する場合は、
「ホイールクリーナー」で
前処理を行います。

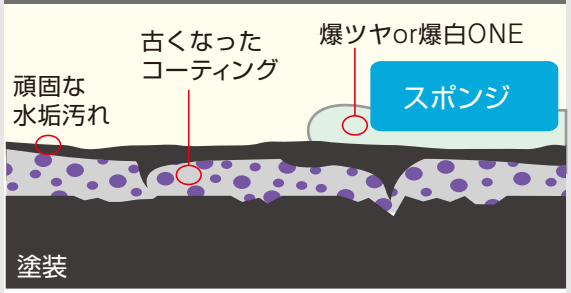




STEP. 2 汚れ落とし(コーティング前処理)

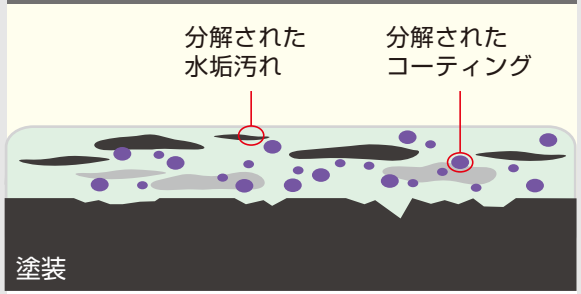
塗装表面の汚れを落とします

爆ツヤor爆白ONEを塗る



1スパンずつ隙間なく塗り広げる。

付け置き



化学的な力で、汚れを分解し
浮かせる。(付け置き)

汚れを動かす



浮いた汚れを軽く動かして崩す。

用意するもの



爆ツヤ (水垢落とし剤)

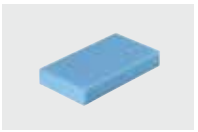
- どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど安全性を持った未だかつてない超安全な、強力洗浄剤です。
- 洗浄能力は爆白ONEの87%。コーティング塗布前の「脱脂」の機能まで持っています。
- 特に新車、黒色車に最適です。



爆白ONE (水垢落とし剤)

- アルカリの化学的な力と、超微粒子パウダーの物理的な力を併せ持ちながら、塗装を決して傷めない安全かつ強力な水垢除去剤です。(特許登録済)
- 水垢汚れだけでなく、古くなったコーティングをすっきりと落とすことができ、あらゆるコーティングの下地処理として有効です。
<特許番号　第4077734号>

●スポンジ 青



●ラ・モップ Ⅱ



●作業用ゴム手袋
(爆ツヤ・爆白ONE作業時のみ使用)



STEP.2　汚れ落とし（コーティング前処理）

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」を
「スポンジ 青」に適量取る

＊太線1本

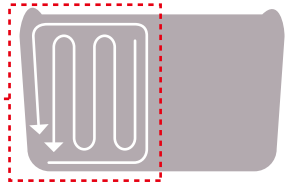




❷ ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

＊塗り広げる時の
スポンジの動き

1スパン



＊塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように軽く押さえる。





❸ 3スパンまで❶・❷の
作業を繰り返す

⚠ 注意：
● 「爆ツヤ」または、「爆白ONE」を
ボンネットなどの隙間に入れないよう注意してください。
面の場合は中から塗り広げ、最後に枠を囲めば隙間に入りにくくなります。

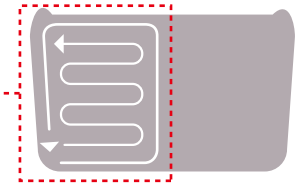




STEP.2　汚れ落とし(コーティング前処理)

❹ 1スパン目に戻って、塗り広げた塗装面を軽くこする(汚れを動かす)

＊軽くこする時のスポンジの動き



＊軽くこする時のスポンジの押さえ方

手のひら全体でスポンジが半分へこむ位の力で押さえる







参考

- よりきれいにするために、ドアノブのツメによるキズの汚れやエンブレムなど細かな所は特にしっかりと汚れを落とします。

❺ ボディ全体に❶～❹の作業を行う





⚠ 注意：

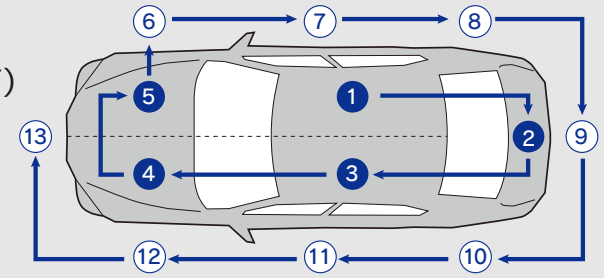
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。

参考

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)

作業の流れ

(●上面、○側面)





STEP.2　汚れ落とし（コーティング前処理）

❻ ラ・モップⅡを使って「爆ツヤ」または、「爆白ONE」をしっかりと洗い流す



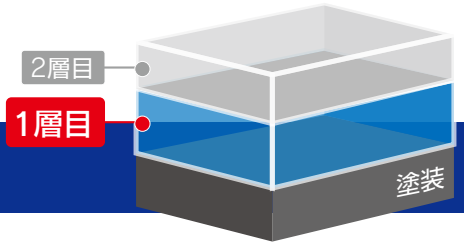
参考
- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。

ワンポイントアドバイス

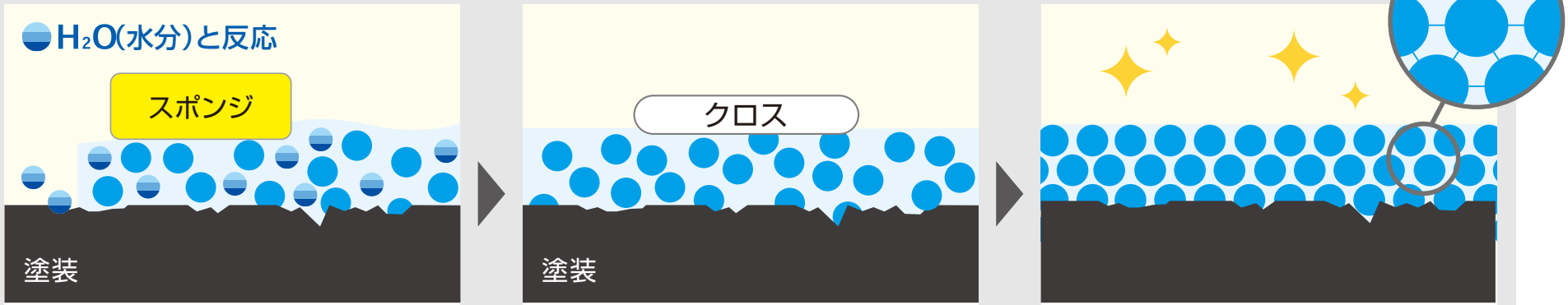
●経年車などで汚れが落ちきって塗装面の肌が荒れている場合、
「グラスアップゼロ」をスポンジに付けて擦ると整います。
※作業後キーパークロスで拭き取りコーティング施工へ。



STEP.3 ガラスコーティング



一層目のガラス被膜を形成します



ダイヤモンドキーパーケミカルを塗る。

余分な液を拭き取る。

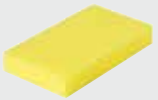
水分と反応をし
強固なガラス被膜が形成される。

用意するもの



ダイヤモンドキーパーケミカル
（ボディガラスコーティング剤）

●最高級品質のツヤと光沢を出す本物のボディガラスコーティング剤。施工性の良さも魅力です。
●塗装を傷める成分を一切含まないので、安全に施工することができます。
<ドイツSONAX社と共同開発商品>



スポンジ 黄

ダイヤモンドキーパーケミカル用
EXのBメンテナンス、プライマーガラス用
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



ダイヤクロス（×4枚以上）

ダイヤモンドキーパーケミカルなどの
拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.3　ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

**●ガラスコーティングの施工はピット内など
ホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工は
ボディに傷をつける原因となります。



**●炎天下はもちろん、
温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、
塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。
ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

❶ フロントガラスの上部に タオルを当てておく



参考
- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。
- もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。

❷ 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に 「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）





参考
- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、
車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

STEP.3　ガラスコーティング

❸ ボンネット半分位 一定方向に「隙間」なく フチまでしっかり塗り広げる

＊スポンジの動き



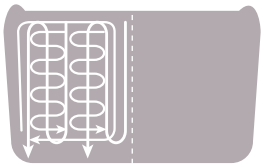
＊スポンジの持ち方
スポンジを支えるように
軽く押さえます。





参考
- スポンジ（黄）がボディの水分を含んできたら、絞ってダイヤモンドキーパーケミカルを足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

❹ ❸で塗り広げた範囲を クロス方向にすり込み、 ガラス被膜を定着させる



＊スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが
半分へこむ位の力で押さえる





❺ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で 拭く

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む





参考
- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

STEP.3　ガラスコーティング

❻ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む





参考
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

注意：
- ダイヤクロスは水を固く絞って使ってください。

❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う

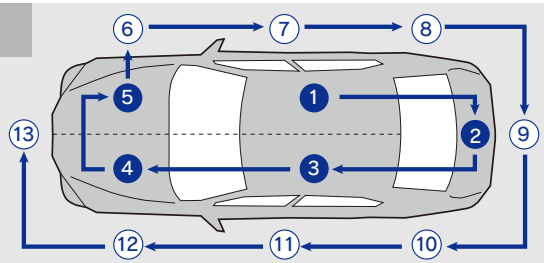


注意：
- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。

参考
- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。（付いても害はありません）

コーティングの流れ

（●上面、○側面）





ワンポイントアドバイス

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編
窓用クリーナーなどを、
キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編
湿らせて固く絞ったキーパークロスで
拭き取ります。

STEP.3　ガラスコーティング

❽ エアーガンでタオルで拭けない「隙間」の水を飛ばす



参考
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。

❾ ボディ、窓、ステップ、ボンネット裏の水を拭き取る

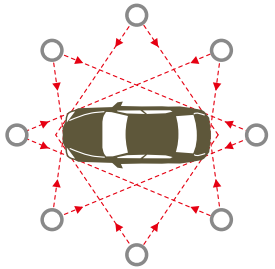




注意：
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

❿ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。





参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト」でボディ全体に拭き残しがないか確認します





使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード

STEP.3　ガラスコーティング

ワンポイントアドバイス

●スポンジの正しい押さえ方

塗り広げて被膜を形成させる時



手に力を入れずにボディに置く。



そのままの感触でスポンジの上に乗せる。



そのままの状態で塗り広げる。

被膜を定着させる時



指先を体の内側へ向けるように手首を曲げる。



スポンジが半分へこむ程度、手のひらで押さえる。



リズミカルに力を入れて定着させる。

NG



つまむように持つ。

NG



押さえる力が均等でなく、塗装面に均等に接していない。

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルを黄スポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

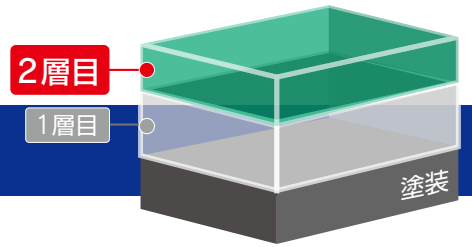
ウィンドウガラス編

窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

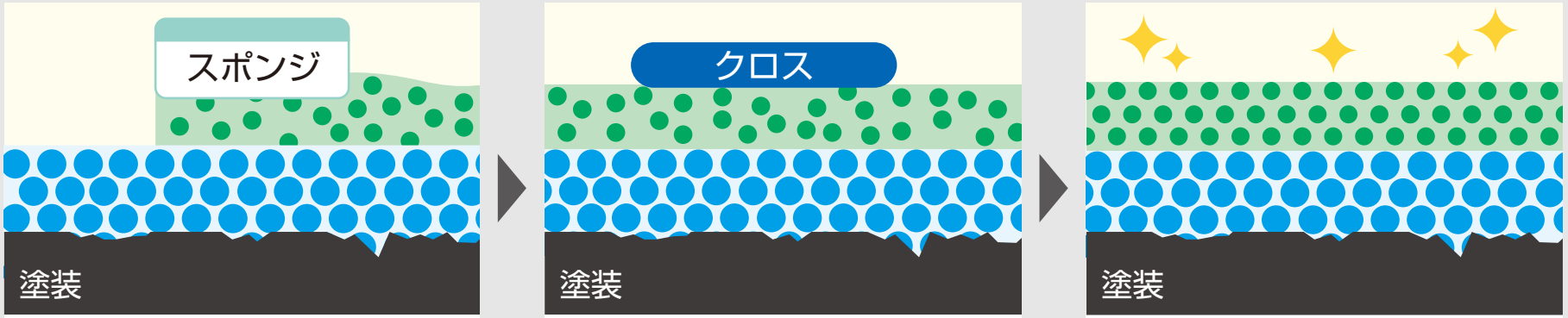
ゴム、プラスチック編

湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP.4 レジンコーティング



2層目のレジン被膜を形成します



FRESHレジンを塗る。

余分な液を拭き取る。

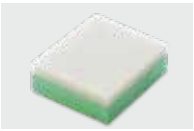
ガラス被膜の上にレジン被膜が定着。

用意するもの



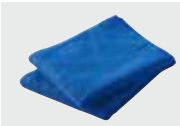
FRESHレジン （レジンコーティング剤）

●FRESHレジンは、特殊なコーティング表面の分子構造の効果で、ファンデルワールス力（分子間力）による“汚れ”の密着を防ぐ独特な防汚能力を持ち、ホコリが降り積もっても塗装表面には密着せず、自然の雨が降れば元々持っている撥水力で、弾かれた水と一緒にホコリなどの汚れが流れ落ち、まるで洗車をしたようにキレイになります。



レジン用スポンジB

ダイヤⅡレジン・FRESHレジン用
※新品を使用してください。



レジンクロス （×6枚以上）

FRESHレジン、ダイヤ Ⅱ レジン、
レジン2の拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.4　レジンコーティング

塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

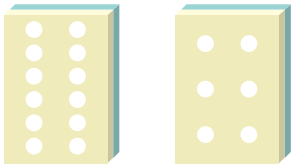
❶「レジン用スポンジB」に「FRESHレジン」を適量つける

⚠注意：
- FRESHレジンは、開封後も冷蔵(凍)保管で72時間使用可能です。

＊キャップの開け方
下に押し込みながら
反時計回りに回します。



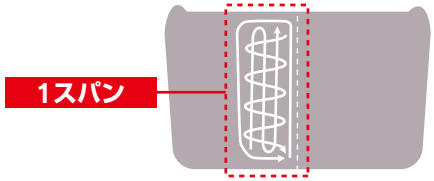
＊最初は12滴　＊以降は6滴





❷ ボンネット1/4位の面積にタテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
軽く掴むように持つ



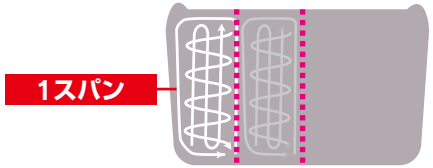


⚠注意：
- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

参考
- スポンジの動きが重く感じたら「FRESHレジン」を足してください。

❸ となりのスパンに、❶～❷の作業を繰り返す

＊スポンジの動き







参考
- となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。
- 湿度が高い場合は、❸の面積をボンネット1/4にするなど小さくすると施工しやすくなります。

STEP.4　レジンコーティング

❹ 1枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む

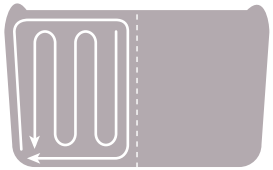




参考
- 「FRESHレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

❺ 2枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回仕上げ拭き

＊クロスの動き





参考
- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジンクロス」はどちらの面を使用しても 仕上がりに差はありません。

❻ 1パネル毎に仕上げ、 拭き残しがないか確認

使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード







ライトで塗装面を照らして、ライトの映り込みを
見ながら拭き残しをチェックするあ

⚠ 注意：
- 拭き残しが出来ると、拭き取りにくくなるため拭き方は、 1スパンずつ確実に仕上げる。

参考
- FRESHレジンは、拭き残しが固まって拭けなくなるため（クリーナーで取れる） 濃色車・淡色車でも容易に拭き残しが確認できる「KeePerチェックライト」・ 「チェックボード」の使用を推奨してます。
- 拭き残しがなければ、余計に拭く必要はありません。

STEP.4　レジンコーティング

❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う



⚠ 注意：

- エンブレムやドアノブなど、細部に「FRESHレジン」が入り込まないよう、細部から塗らず広い面を塗り広げてから、細部を塗るようにしてください。

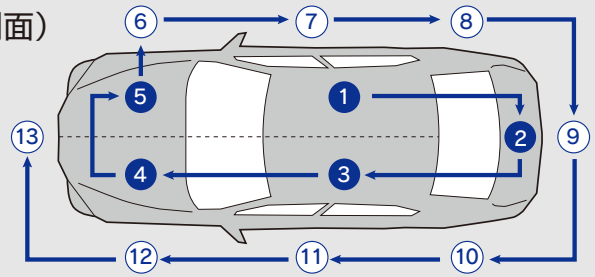




- もし「FRESHレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。

エコプラスレジンコーティングの流れ

（●上面、○側面）









参考

- 作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジンクロス」を換えてください。
- 作業の途中で、塗り広げにくくなったら「レジン用スポンジB」を換えてください。

STEP.4　レジンコーティング

❽ 仕上がり確認

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。
  側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に
  拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」で
  ボディ全体に拭き残しがないか確認します。
- 拭き残しがあれば、乾いた「レジンクロス」で仕上げ拭き。
  窓、レンズ類、樹脂パーツは、水で固く絞った「キーパークロス」で
  拭き上げます。



蛍光灯などの映り込みを見ながら
拭き残しがないか確認します。



ボディに映り込んだ「チェックボード」に
拭き残しが映らないか確認します。





使用ツール
(左)キーパークロス
(中)チェックボード
(右)KeePerチェックライト



●拭き残しが固まって取れない場合は、一旦レジン拭き残しクリーナーで、すべてを取り除いてやり直しです

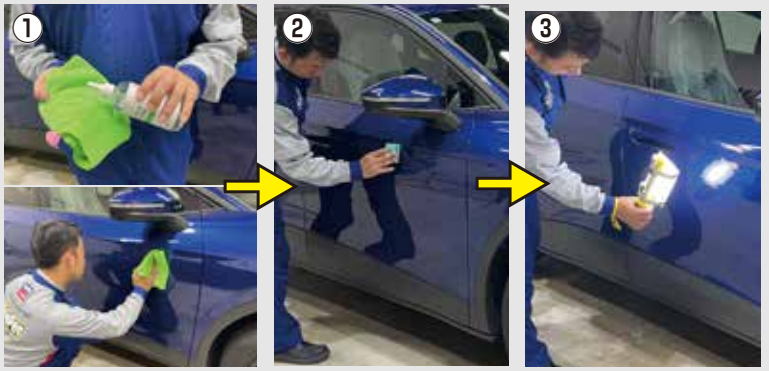
① レジン拭き残しクリーナーをキーパークロスに大きくWを描くように付けて、
1パネル全体にタテヨコ隙間なく擦って拭き取る
※それでも取れない場合は、レジン拭き残しクリーナーをよく含ませた
ティッシュ（余分な成分が含まれていないもの）を
拭き残し箇所につけて、10分程度時間をおいてから拭き取る。
（色のついたマイクロファイバークロス・タオルは、色移りをする可能性があるため使用しない）

② 拭き残しが取れたことを確認してから、
一層目のダイヤモンドキーパーケミカル、二層目のダイヤⅡレジンを施工

③「KeePerチェックライト（推奨）」で拭き残しがないか確認し完了

使用ツール
レジン拭き残し
クリーナー





⚠ 注意：
- 1パネル全体を行う理由は、FRESHレジンは施工時間が経ってから重ねて塗るとムラになる場合があるためです

STEP.4　レジンコーティング

❾ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化
もしくはコーティングホールドの作業を行う



参考

●フレッシュキーパーは、すべてを施工した後、
水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化をして完了です。
すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、
施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です

ワンポイントアドバイス

●コーティング施工時のNGな動作集



スポンジを押さえる時に力を入れすぎ



スポンジを握るようにして使う



クロスを握るようにして使う



ボディに体重をかける



クロスを広げたまま使う



円を描くように塗布する



容器や道具をボディに載せる

コーティングホールドを行う場合

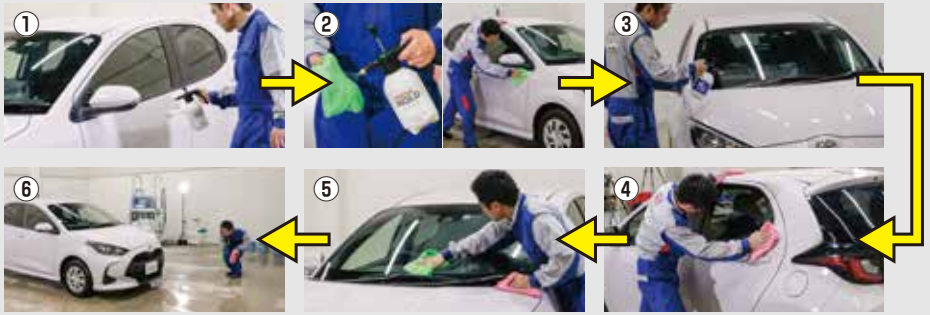
❶「コーティングホールド」の作業を行う

参考
● 屋内で「夏2時間～冬5時間」の自然硬化と、
コーティングホールドで時間短縮をした場合では仕上がりと品質は変わりません。

コーティングホールドを行う場合の使用ツール
(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



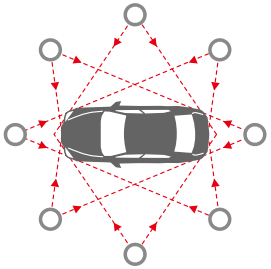
フレッシュキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する
① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
⑥ 水滴残りがないか確認



❷ 仕上がり確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、
拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

参考
● 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。





❶ オプション（鉄粉が付着している場合）

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



⚠ 注意：塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

STEP.1　ピュアアップ4

**❶ 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす**





**❷ 30 ～ 40 ㎝四方を1スパンとし
トラップ粘土（青）でタテヨコに素早くこする**





⚠ 注意
- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

参考
- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。

**❸ ❶～❷の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う**



⚠ 注意
- 鋭角なプレスラインは、またがないように
  作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。

STEP.2　洗い流し

❶ 水で洗い流す



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
- アイアンイーター
  （鉄粉除去剤）





①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1～2の作業を行う。

撥水効果についての基礎知識

フレッシュキーパーを施工して数カ月後に洗車をした時に「水はじきが少し落ちた」と感じられた場合でも、それはフレッシュキーパーのコーティング被膜が壊れた訳でも、効果がなくなったからでもありません。水はじきを邪魔する「撥水阻害被膜※」が乗っている場合がほとんどなのです。

この撥水阻害被膜は、非常に薄く、もろいものなので簡単に除去してもとの撥水効果を取り戻すことができます。

※自然界には様々な汚れがあり、日常生活の中でそれらが車体にかかります。どれもすぐに洗い流せば全く問題ありませんが、時間が経過し条件が重なった場合において、洗い流しにくい目に見えない程度の「薄い汚れの膜」がコーティング被膜の上を覆います。この外的要因によってコーティング被膜の上にできた、撥水を妨げる膜のことを「撥水阻害被膜」と呼びます。

水はじきを邪魔する主な「撥水阻害被膜」の原因



黄砂によってケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜ができる

黄砂を大量に含んだ雨が降ってボディの上で乾くと、コーティング被膜の上に薄く「親水のケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜」を作ることがあります。その結果、コーティング被膜が撥水しなくなったように見えてしまいます。



洗車後の水を拭き上げないで水道水や井戸水によってミネラル被膜ができる

洗車（特にセルフの連続洗車機）などで水を拭き上げないと、水道水（井戸水）がボディの上で乾き、薄く「ミネラル被膜」を作ることがあります。
黄砂と同様に撥水を妨げる原因となります。



雪の多い寒冷地域で雪道にまかれた融雪剤によって塩化カルシウム被膜ができる

融雪剤で用いられる塩化カルシウム・岩塩は水をはじきません。洗車をしても、塩化カルシウムの薄い被膜が残り、撥水阻害の原因となります。

ミネラル取り洗車

洗車をすることで撥水効果を
簡単に取り戻すことができます。



比較的頑固になってしまった撥水阻害被膜が付いている場合には、

「キーパークロスに少量のミネラルオフをよく揉み込んで」

洗車の最終拭き上げをすると簡単に取り除くことができます。

ミネラル取り洗車で使用するツール

- ミネラルオフ
- キーパークロス



❶ 洗車をし、洗い流す。





❷ キーパークロスに少量のミネラルオフをつけよく揉みこむ





❸ 洗車の拭き上げをしながら撥水阻害被膜を掻き取ると撥水と輝きが復活





マイクロファイバークロスの再利用について

コーティング施工後の「マイクロファイバークロス」は再利用できます。
コーティングに使用後のマイクロファイバークロスは、
すぐに「クロスポクリーナー」を加えた水に
漬け置いてください。

使用するツール

●クロスポクリーナー



❶ バケツに水を入れ「クロスポクリーナー」を加えます。



参考
- 目安は水10ℓにクロスポクリーナーキャップ1杯程度

❷ コーティング施工後すぐにマイクロファイバークロスをバケツの中に漬け置きます。



❸ その後、市販の洗濯洗剤で洗濯します。



参考
- 再利用し続けて、硬くなってきたり、コーティングが拭き取れにくくなってきたら、ウエスなど他の用途に使用してください。